佐藤葉子委員資料

資料２

川越の「知」を支える～人と情報を結ぶ図書館～

１．議題の内容・方針

図書館利用の促進について

２．現　状

○利用状況

・近年個人貸出数は減少傾向にある（「R4.図書館運営方針」）。

・若年層の利用が少ない傾向。

○課題解決・読書支援

・レファレンス・サービスの活用（「R4.図書館運営方針」）。

○市民の意識

・ 新しい図書館への期待がある（R2.利用者アンケート）。

○市ＨＰ、広報誌

・図書館ＨＰへのアクセス促進。

○図書館ホームページ

・川越市立図書館では、ウェブアクセシビリティに配慮したホームページ作りを目標としている。

３．課　題

ア　市の広報誌：図書館ＨＰへの二次元コードの添付等の工夫。

イ　図書館ＨＰの充実：図書館だより、展示情報の掲載。

ウ　課題解決・読書支援の活用

エ　電子書籍サービスのさらなる向上が必要

オ　非来館者に向けたサービス：デジタルに不慣れ、来館困難な人、在日外国人、病院

４．方　法

ア　図書館ＨＰの情報発信➢図書館だより、展示情報の掲載、メールマガジンの発信。

イ　図書館の利用促進・啓発

・集会等の機会や長期休みの前に利用カードの発券や利用案内を行う。

・講座・講演会の開催：郷土資料解題講座を開催している。　➢川越市ゆかりの作家、JAMSTEC、JAXA、校閲者、文学講座、能・狂言入門、手話・点字講座、朗読講座等。

ウ　レファレンスサービスの利用促進・活用

➢レファレンス協同データベースの活用（国立国会図書館）。

エ　電子書籍サービス案内

➢ＨＰ＆電子書籍＆データベース講座、電子書籍で読める本展示、病院での活用促進、電子書籍のおすすめパンフレット、子ども読書活動推進での活用。

オ　行政各部署との連携・協働

➢行政レファレンスサービス、市職員による図書館活用の理解促進。

５．目指す姿

市民の情報拠点となる図書館

◎図書館は、子育て支援、学校支援、障害者支援や教育格差問題、少子高齢化問題等、地域の課題解決に市民・自治体と連携して取り組み、地域の活性化に貢献し、生活の中のルーティンになるような拠点（プラットフォーム）であってほしい。

※考察
連携の方法、個人情報保護、人員と予算。

川越の「知」を支える～人と情報を結ぶ図書館～

1. 議題の内容・方針

不登校やひきこもりに悩む当事者や家族を支援していくために、図書館としてできること

2. 現　状

〇小中不登校29万人最多（R4）

・無気力・不安、生活リズムの乱れ、友人関係をめぐる問題等要因や状況は様々である。

〇不登校当事者支援

・支援を受けていない不登校約１１万５０００人。

〇家族への支援

・親、家族としての不安や葛藤を解消するために、情報収集支援が必要。

〇図書館の対応

不登校児童等を暖かく見守る。児童生徒の対応については、不登校児童生徒支援プランに基づき、教育センター等が対応している。

3. 課　題

ア　教育機会の確保等や自立することを目指すことの必要性を、理解してもらう。

イ　コロナ後の子どもの心のストレスや対人スキルの影響緩和。
➢レジリエンス力をつける。

ウ　保護者・家族の不安、悩み解消のための情報不足
➢情報や状況を理解する ために、最初のアプローチとして、図書館情報は必要である。図書館として更に、どんな支援ができるか。

4. 方　法

ア　電子書籍の活用案内、図書リストの配布（当事者・家族）、HPにリスト掲載、本の郵送サービス（返却は図書館へ）➢教科書以外の本による知識・情報の獲得。

イ　図書館においで： 駅前に集合し、図書館迄一緒に行って利用方法をレクチャー（情報リテラシー）➢居場所としての図書館

ウ　保護者・家族への情報提供や専門機関へつなぐ場の提供。

エ　心理的安全性を高める環境の確保。

5. 目指す姿

市民の情報拠点となる図書館

◎不登校・ひきこもりの現状を受け止め、読書活動が豊かな心を育み、質の高い知識を得るために不可欠である図書館の働きかけを行う。

◎ 夏休みの終わる頃にメディアでも不登校やひきこもりの問題が取り上げられる。他者に知られたくない多様な潜在的な利用者に図書館情報から支援につなげることができるよう、図書館として、課題解決につなげる。

◎自治体、企業、専門機関とのネットワークを活用した図書館事業を行う。

※考察：連携の方法、個人情報保護、人員と予算。